



かたぐい

学校教育目標

夢ふくらませ 心かがやく



令和4年度
第7号

2022. 5. 19

「下学年読み聞かせ」

18日(水)のスキルタイムに、今年度1回目の『ひまわりの会』の方による「読み聞かせ」が行われました。今回は、1～3年生53名が交流ホールに集まり、3冊の絵本の読み聞かせをしていただきました。

1冊目は『いろいろななかぞくのほん』。世界中にはいろいろな家族があり、家族構成や住んでいるところ、仕事や休みの日の過ごし方、お祝いごと家族によってそれぞれ違うこと。どんな気持ちで暮らしているかも違うことなど、人類の多様性を感じることができる本でした。2冊目は『にんげんごみばこ』。「どっかいけばいいのに」「もういらない!」など、頭にきて許せず口から出てしまうこれらの言葉。許すことの大切さはわかっている、実際には難しい…。でも、「大事なものはゆるすこと、自分もその人のことも」と考えさせてくれる本です。3冊目は『ムカムカドッカーン!』。怒ることが悪いことではなく、怒りの感情とどう向き合うか、どうコントロールするかが大切なんだということを教えてくれる本です。



子どもたちは、どのお話も集中して聞き、なかには、夢中になり身を乗り出して聞いている子どももいました。終了後には、3年生のT.Aさんが、「世界には、いろいろな家族の形があることがわかりました。」と感想を発表してくれました。子どもたちなりに、いろいろなことを感じ取ることができた15分間だったようです。

「読み聞かせ」…脳科学研究において、「読み聞かせ」は、喜怒哀楽を司る大脳辺縁系が活発になり豊かな情緒を育むことがわかっている。発達心理学研究では、子ども自身のことばの力が向上しコミュニケーション能力を育て「自ら学ぶ力」の土台となる、という報告がある。「読み聞かせ」というと、文字が読めない乳幼児のころにするものと思われがちであるが、実は文字が読めるようになった小学生になってからもその効果は期待できる。

「6年租税教室」

18日(水)3校時、6年生の社会科学習として「租税教室」が行われました。これは、外部講師による租税教室(出前授業)を実施することにより、身近な生活と税の関わりや税の必要性を考えることで、「国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解する」ためのものです。

今回は、講師として大曲税務署から二人の方に来ていただきました。税について、クイズ形式で学習したあと、実際に税がどのように使われているのか、税がなかったら生活はどうよに変わるかについて考えました。また、ジュラルミンケースに入った1億円(レプリカ)を見たりもしました。

子どもたちの中には、「学校のプールが税金1億円も使われている…」と学習した内容と目で見えた内容とを結びつけて捉えている子どももいました。内容の濃い1時間でした。

